

2007年度の安全活動

「チェンジ21活動推進委員会」の設置など、従来の安全管理活動を見直すとともに新たな活動を追加し、安全管理体制の再構築を図っています。

不具合管理に対する徹底した原因追及、水平展開 — 製油所安全管理体制見直し事例 —

チェンジ21活動では「社会から信頼され続け、社員が誇れる、安全・安心な製油所を創り上げよう」をスローガンに掲げ、「事故ゼロを達成し、それを維持する」ことをゴールビジョンに、「不安全不具合の発生を2010年に、ベース年比90%以上削減する」ことを定量目標としました。ここで、ベース年とは2006年9月から2007年8月の1年間であり、この間、コスモ石油4製油所およびコスモ松山石油で発生した不安全不具合は、110件です。目標を達成するために、保全範囲の見直しおよび必要な各種検査により保全レベルを向上させるとともに、設備や運転の変更による不具合発生未然防止策として実施している変更管

理の仕組みを見直すなど、体制整備に取り組んでいます。

不具合を削減するためには、徹底的に原因追及を行い不具合の芽を取り除くことが重要であると考え、原因追及は、不具合ごとに編成された部門横断的な専門チームによって対応することとしました。製油所の専門チームメンバーに加え、本社メンバーも加わり、本社と製油所が一体となって徹底した原因追及を行っています。

また、類似不具合を発生させないためには水平展開が重要であると考え、2007年4月より全製油所共通のデータベースで不具合管理を開始しました。他製油所の不具合をもとに、各製油所にて実施した水平展開調査・対応についても同じデータベース上に掲載しています。

製油所安全管理体制の再構築（チェンジ21活動）

保安担当役員を委員長とするチェンジ21活動推進委員会を設置し、従来から実施してきた各種安全管理活動を見直すとともに新たな活動を追加するなど再構築を図りました。委員会の下部組織としてワーキンググループ、タスクチームを設置することで本社・製油所が一体となって活動しています。

スローガン：『社会から信頼され続け、社員が誇れる安全・安心な製油所を創り上げよう』

ゴールビジョン：『事故ゼロを達成し、それを維持する』—不安全不具合件数を2010年にベース年*1比90%以上削減を達成する

目標達成のため、従来の「早期発見」から「未然防止（不具合ゼロ）」へ意識を変えるとともに、上層部だけの活動にならないよう現場まで施策の「心」を理解して自発的に行動することを基本方針として、活動に取り組んでいます。

活動内容

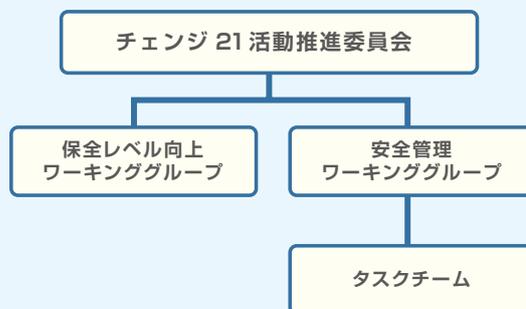
保全レベルの向上

- 網羅性の向上：保全範囲の見直し、機器全定点見直し、経年劣化診断の早期終了、エロージョン・コロージョン*2 拡大検査範囲の見直し など
- 予見性の向上：過去10年間の構造変更の見直し など
- 信頼性の向上：運転変動・外乱に対して耐久性のある設備の実現
- 管理性の向上：保全基盤資料の整理 など

確実な取り組み・運用

- 規則、基準類の最適化：変更管理の見直し など
- 取り組みの確実化：水平展開の仕組みの再構築
- 取り組み強化：各種安全性評価の継続的実施 など

取り組み体制



*1 ベース年:2006年9月1日~2007年8月31日

*2 エロージョン・コロージョン:流体が材料に繰り返し衝突することで、表面が物理的に損傷を受ける侵食(エロージョン)と、酸などによる腐食(コロージョン)の相乗効果により減肉する現象。

安全へのさまざまな活動

安全査察

総合安全対策本部は、毎年、コスモ石油グループの事業所や事業所を管理している本社部門に対して、安全査察を実施しています。安全管理状況を直接確認し、必要に応じて、改善指導、提言を行うとともに、現場とのコミュニケーションも図っています。2007年度は、4製油所を含む12事業所・部門の安全査察を行いました。

製油所に対する安全査察では、実務面の実施状況の確認を強化しました。査察班に、従来の本社メンバーに加えて、他製油所のメンバーが入ることにより、実務遂行の上で、より実行的な改善指導、提言を行うことができました。また、製油所が抱える課題の議論により多くの時間を充てることとし、実質的な議論を行い、全社で課題の共有化を図っています。

無災害表彰

コスモ石油では、毎年、労働無災害または操業無災害を達成した製油所等に対し、表彰を実施しています。2007年は、千葉製油所と中央研究所が、労働無災害表彰を受けました。

MESSAGE

若手の意見を取り組みに活かす。
ボトムアップ型の運営が活性化のカギ。

四日市製油所 工務課長

高木 吉廣



私が所属している「チェンジ21活動推進委員会」の「保全レベル向上ワーキンググループ」では、「全機器の定点見直し／検査」と「過去10年間の構造変更の検証」による千葉製油所事故の再発防止策や経年劣化診断の早期一巡化完了等の保全レベル向上施策の活動をし、進捗状況を委員会に報告してきました。経年劣化診断で言えば、83項目、数万箇所に及ぶ物量把握が昨年10月にほぼ終了し、その実行プランに入っています。プランニングと実行は同時並行ですので、大きなPDCAを回しつつ、小さなPDCAも同時に回さねばならない状態です。またこれら保全レベル向上施策を円滑且つ効果的に実施するためには、ルーティン業務の見直しや改善も必要となり、これらの議論・検討については実務部隊が中心となって行い、そこから意見を吸い上げるというボトムアップの流れができつつあり、保全部門一丸となった取り組みが活性化してきたのを肌で感じています。

◆2007年度安全査察実施事業所／会社

コスモ石油	千葉製油所
	四日市製油所
	堺製油所
	坂出製油所
	中央研究所
	小売販売部
	物流管理部
	事業開発部
関係会社	コスモ松山石油
	コスモエンジニアリング
	コスモ石油ルブリカンツ
	コスモ石油ガス

経営者の事業所訪問

安全管理活動の要は製油所の第一線にいる社員であることから、経営トップの事業所訪問を実施しています。2007年度は、社長・保安担当役員が全製油所を訪問し、計器室を回って、約500人の社員に向けて直接メッセージを伝えました。また保安担当役員は、現場の第一線で働いている社員と直接対話し、安全に対する意識を共有しました。



千葉製油所への経営トップ訪問

危機管理

大規模災害を想定した全社的な訓練を年1回実施しているほか、首都直下型地震、東南海・南海地震が発生することを前提に、被害を最小にするための取り組みを行っています。コスモ石油グループの事務所や計器室等、人が常時使用するすべての建屋について耐震診断を行い、耐震性が十分でない建屋については、対策計画を立案し、順次対策を進めています。また、製油所においては、大規模地震を想定し、リング火災*が起きたことを想定した訓練を実施しました。



大規模災害訓練の実施

* 浮き屋根タンク(原油、ガソリン等揮発性の高い油種にて使用)の浮き屋根とタンク内壁の隙間から油が漏れたことにより、タンク内壁に沿った火災が発生すること。